

主要事業評価シート(第1次実施計画／H29・30・R1年度)

①基本事項	計画コード	事業名		部名	健康福祉部	
	17087	認定こども園整備事業		課名	子ども未来課 子ども総務G	
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実		財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	02:安心して産み育てられる環境づくりの推進			款	03:民生費
	施策の方向	02:就学前教育・保育施設の再編・整備			項	02:児童福祉費
	戦略プロジェクト	05:「そして、親となるまち」プロジェクト			目	01:児童福祉総務費
	事業予定期間		H 29 ~ R 4 年度	主な根拠法令要綱等		児童福祉法 子ども子育て支援法

② 目的・概要	対象	就学前児童及びその保護者			
	目的	保育を必要とするすべての子どもが保育を受けることができるよう、保育需要に応じた施設の確保・充実を図るとともに、保護者の就労形態やニーズに応じた多様な保育サービスの提供に努め、仕事と子育てが両立しやすい環境整備を行う。			
	概要	幼稚園と保育所の特長を合わせ持ち、保護者の就労状況にかかわらず利用できる教育と保育を一体的に行う施設として、市内の拠点園となる療育等機能を付加した認定こども園を整備する。			

平成29年度			平成30年度		令和元年度	
年度計画	○認定こども園整備基本構想策定 ・庁内検討		○基本設計 ※実施設計と合わせて契約		○実施設計 ○埋蔵文化財調査 ○地質調査 ○用地取得 ・土地開発公社買戻 4,020.46㎡ ・普通財産の所管替 1,006.43㎡	
	○認定こども園整備基本構想案の検討		○認定こども園整備基本構想の検討 ○地域への説明会の開催(7回)			
年度実績						
事業の計画・実績	計画額	事業費		13,900千円	170,400千円	
		国庫支出金			17,460千円	
		県支出金				
		地方債			15,700千円	
		その他				
		一般財源	0千円	13,900千円	137,240千円	
	予算額	事業費		0千円		
		国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
		一般財源	0千円	0千円	0千円	
	決算額	事業費 ①	0千円	0千円		
		国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
		一般財源	0千円	0千円	0千円	
	人件費	総人件費 ②	2,304千円	2,335千円		
		一般職員	2,304千円	2,335千円		
所要人員		0.30	0.30			
臨時職員等		0千円	0千円			
総コスト(①+②)		2,304千円	2,335千円			
受益者負担率		0.0%	0.0%			

				平成29年度	平成30年度	令和元年度
④ 指標	①	名称 基本構想	活動	計画値	策定	
				実績値	未策定	未策定
				単位		
	②	名称 基本設計	活動	計画値		完了
				実績値		未着手
				単位		
	③	名称 実施設計	活動	計画値		完了
				実績値		
				単位		

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 地域の関心は当事業のみでなく、道路整備などにもあり、関連事業の担当課とも連携しながら、地域への丁寧な説明を行う。 また、社会資本整備総合交付金の活用を図るため、立地適正化計画の公表から3年の期限となる令和2年9月までに、実施設計に着手できるよう、平成30年度に予定している設計業務（基本設計・実施設計）の契約事務について、スケジュールに留意しながら進める。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 地域への説明会を通じて出された意見を踏まえ、計画の内容を見直すとともに、直接的な影響の大きい地元自治会に対しての説明を行うこととした。説明会にあたっては、すべて道路担当課と合同で説明を行った。 立地適正化計画の期限が別事業の進捗によりクリアされたことから、より丁寧な説明を行うように努めた。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 前年度に引き続き、地域の理解を得るための説明会を7回開催した。これと並行し、地域から出された意見を踏まえ、計画の見直しを行った。	C あまり実施できなかった
	成果	【成果は順調に上がったか】 当初の計画案から見直しを行ったことで、事業に対する理解を一定程度深めることができた。	C あまり成果を得られなかった

⑦今後の対応方針	課題	【課題は何か】 事業の具体的な着手を図るためには、より深い地域の理解を得る必要がある。	今後の方向性	☐ 拡大
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 より丁寧に地域の意見を聞くことで、地域にとっての問題点を把握し、市の事業推進意義との整理を図りながら、事業を進める。		☒ 現状維持
		効果		【対応することで、どのような効果が期待できるか】 事業実施以前から地域の深い理解を得ている施設となることで、完成後の長期にわたる運営期間においても、地域と共存できる施設としていくことができる。
	対応時期 令和元年度			☐ 廃止
			☐ その他	
			【その他の場合、その内容を記載】	

【1次評価者】	健康福祉部 子ども未来課 子ども総務グループリーダー 林 秀臣
【最終評価者】	健康福祉部 子ども未来課長 豊田 達也

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	C	C			
	成果	C	C			